

## 第4学年 ESD（総合的な学習の時間）学習指導案

日時：平成29年11月10日（金）5校時

場所：第4学年教室 授業者：第4学年担任 滝田美智代（T1）

特別支援学級担任 佐藤 陽子（T2）

### 1 単元名 「私達を取り巻く環境 ごみ減量プロジェクト」

### 2 児童の実態

本学級の児童は、興味・関心のあることには意欲的に取り組む。1学期には、学校農園で作物を育てる活動を計画し、育て方を調べ、自分たちで畑を耕すところから行った。しかし、興味や意欲には個人差がある上に9名という少ない人数のため、全員が一致した目標を定めその目標に向かって全員が協力して継続的に取り組むことが難しく、活動が単発的になりやすい。そこで、4学年になり上学年としての活動が増えている中、みんなで協力して目標を達成する充実感を味わえるよう取り組んでいるところである。

また、教科等の学習で学んだことと自分たちの生活とをつなげて考えることは苦手な児童が多く、社会科で水やごみについて学習したときも、自分たちの身近なこととしてとらえようとする意欲は低かった。

なお、特別支援学級の児童2名がいっしょに学習しているため、特別支援学級の担任もいっしょに授業を進めていることが多く、T2として支援を必要とする児童の指導に当たっている。

### 3 ESDの視点に立った学習指導について

#### (1) 教材について

本単元は、環境にかかわる問題を自分の身近な問題としてとらえ、自分たちができることを考え、発信していくことをねらいとしている。児童は、社会科の学習で「水」と「ごみ」について学習し、自分たちを取り巻く環境について学んできた。また、9月の初めに浄水場と衛生センターを見学し、学習したことを実際に自分の目で確かめたり、見学してよくわからないことを積極的に質問したりして意欲的に学習することができた。その中から、「このままごみが増え続けると、日本がごみの島になってしまう」という課題に気づくことができた。10月には、ごみについて調べたことを元にした自分たちの考えを、祖父母参観で地域の人たちに発信する活動を行った。その後は、自分たちの考えをさらに広く、地域の人たちに分かりやすく伝えるための活動を進めてきた。

#### (2) 持続可能な社会づくりとの関連

現在、児童の回りには物があふれている。なんでもすぐに手に入る仕組みは便利である一方、不要な物を増やしていく。実際教室の落とし物箱は、誰の物が分からない落とし物が日々増えていく現状にある。ごみについての疑問を調べることにより、ごみを減らすためには自分たちが努力しなければいけないことに気づかせ、減らす方法を日常生活と結びつけて具体的に考えさせたい。これは、「持続可能な社会づくりの概念」の「責任性」にあたる。また、ごみを減らす方法の一つとしてリサイクルという方法があることは児童も知っているが、自分でできる範囲でとどまっている。リサイクルできる物はいろいろあること、何がどのようにリサイクルされて生かされているかについても調べることにより、リサイクルするためにはリサイクルできるように働きかけることが大切であることに気づかせたい。また、ごみを減らす方法はリサイクルの他にもあることに気づかせ、学校や地域の人たちにも呼びかけてみんなで協力してごみを減らすために自分たちができることを考えさせたい。これは、「多様性」「連携性」にあたると考えている。

#### (3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

<多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力>

「ごみを減らす」ために調べることを決め、調べて分かったことと自分たちの生活を結びつけて、自分なりに具体的な方法を考える力

<気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度>

調べたことを元に自分の考えをもち、それを表現する力。友達の見聞を聞いたり交流したりして、よりよい考えを生み出そうとする態度

<よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度>

「ごみをへらす」という目的のために、「課題をもつ」「調べる」「まとめる」「発信する」の各段階において、自分なりに考え、主体的に学習する態度。

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

- ① 「ごみをへらすために」という目的を常に意識させ、調べる項目を具体的に絞って調べ学習を進めさせる。また、分かったことを自分の言葉でまとめる活動を繰り返し行わせ、自分の考えを持つことができるようにする。
- ② 調べて分かったことを全体で話し合い共有することにより、「ごみをへらすために」に自分たちができることを具体的に考えさせ、まとめにつなげる。
- ③ 発信する相手に合わせたまとめ方や伝え方を考えさせる。また、自分たちのメッセージがどれくらい伝わったかを確かめる方法を合わせて考えさせることにより、みんなで協力してごみをへらしていこうとする気持ちを高める。

#### 4 単元の目標

- ・ ごみをへらすために自分たちができることを、自分たちの生活と関連づけて具体的に考えることができる。
- ・ 考えたごみをへらす方法や工夫を、相手に合わせてわかりやすく表現しようとする。
- ・ 「ごみをへらす」という課題に、友達と協力して主体的に取り組むことができる。

#### 5 指導計画と評価規準（総時数24時間）

段階	主な学習活動 (時数)	多様な観点と見通し (学習方法)	交流と協力 (他者や社会)	つながり (他者や社会)	主体的・計画的 (自分自身)
課題の設定	<ごみ問題について考えよう> (2) ・ ごみ処理場のビデオを見て、未来について考える。 ・ 「ごみをへらそう」という課題を設定し、調べることを具体的に決める。	このままごみが増え続けるとどうなるかを考え、調べたいことを具体的に考えている。	自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして、ごみをへらすためにつながりそうなことを考えている。	ごみ問題は、自分たちの生活と深く関わっていること、自分たちだけでは解決できないことに気づいている。	
情報の収集	<ごみについて調べよう> (6) ・ いろいろなごみのリサイクルの方法やリサイクルされて活用されている物などについて具体的に調べる。 ・ 調べて分かったことを、自分たちの生活と結びつけてまとめる。	ごみ問題についていろいろな観点から、具体的に調べている。	調べて分かったことを元にした自分の考えを表現したり、友達の考えと交流したりすることができる。	調べて分かったことと自分たちの生活をつなげて、ごみを減らすための方法や工夫について考えている。	調べて分かったことを元に、ごみを減らすためにはどうしたら良いかを具体的に考えている。
整理分析	<伝える内容と方法を決めよう> (12) ・ ごみを減らすための方法と工夫についてまとめる。 ・ 中間発表会を行い、学校のみんなや地域の人たちに自分たちの考えを伝える。(祖父母参観) ・ 反省を受けて、「ごみをへらすために」さらにできることを考え、計画を立てる。 ・ 地域の人たちに伝えたい内容と方法について話し合い、まとめ方について考える。(本時)	発信のしかたと相手に合わせたまとめ方を考え、情報を選択している。	友達と協力しながら、発表の練習をしたり、修正をしたり、さらに必要なことを考えたりしている。	発信する相手や場を考えて、自分が伝えたいことを表現している。 自分たちの発表が学校や地域の人たちにどのように伝わったかを振り返り、さらに伝えたいことを考えることができる。	伝える相手、自分の役割を考えながら、発表原稿を書いたり、発表に必要なものを用意したりしている。 ごみを減らすために、さらに、何を伝えたいかを考えている。
まとめ表現	<より多くの人たちに伝えよう> (4) ・ 伝えたい相手に合わせてまとめる。 ・ まとめたものを使って、伝える。 ・ 活動の振り返りを行う。	相手に合わせたまとめ方や伝え方を考えてまとめている。	よりよいものを作るために、友達と意見を交流したり、もらったアドバイスを生かしたりすることができる。	より多くの人たちに「ごみをへらそう」というメッセージを伝えたり、自分のできることを実行したりしようとしている。	これからも、ごみを減らすための努力をしようとする意欲を持つことができる。

6 ねらい

ごみを減らすために、「何を」「どのように」伝えればよいかを考えたり、まとめ方を考えたりすることができる。

7 指導過程

段階	学習内容・活動	時間	○ 指導上の留意点 * ESDの視点に立った留意点 ・ 評価 <ESDで重視する能力・態度>
導入 展開 終末	1 本時のめあてを確認する。	5	○ 白方フェスタの発表を想起させ、さらに広い範囲でメッセージを伝えていくことで、ごみを減らすことができるということを確認する。 ○ さらに広い地域の人たちに伝えることを確認し、相手に合わせた内容や表現の仕方を考えることを意識させる。
	④ ごみをへらすための方法について、「何を」「どのように」伝えるかを考えよう。		
	2 「何を」「どうやって伝えるか」を考える。 (1) 自分が伝えたいことについて考える。	15	* 自分が伝えたいことがはっきりしたら、それを伝えるためにどんな情報が必要かを考えさせる。 <多様な観点と見通し> ○ 友達と意見交換をさせることにより、伝えたいことが似ているときは協力して考えることも認める。 ○ T2は、自分一人で考えをまとめられない児童の支援にあたる。
	(2) グループで意見交換をし、伝える内容についての自分の考えをまとめる。		
	3 自分の考えた「何を」「どうやって伝えるか」を発表し、内容とまとめ方について話し合う。 (1) 自分の考えを発表する。	20	
(2) 全体で話し合う。 ①ごみを出さない工夫について (リフューズ) ②繰り返し使う (リユース) ③もう一度、資源として生かす (リサイクル)		* 聞くときは、「友達の提案は自分にもできるか」という視点を持たせ、自分たちの生活と結びつけて具体的に考えさせる。 <多様な観点と見通し>	
(3) まとめ方と伝え方について話し合い、今後の活動の見通しを持つ。 ① リフレット形式で回覧してもらう ② プリントして配布する ③ ビデオレターにして、みてもらう		* どうやってごみを減らすかという視点で考えを分類整理することにより、生活の中でできることを行っていくという意識を持たせる。 <多様な観点と見通し><交流と協力> * 話し合ったことを生かすためのまとめ方とそれを伝えるための方法について話し合うことにより、今後の活動の見通しを持てるようにする。 <交流と協力><主体的・計画的>	
5 学習を振り返る。 (1) 本時の反省を振り返りシートに記入し、感想を伝え合う。	5	・ 「何を」「どのように」伝えればよいかを考えたり、まとめ方を考えたりすることができたか。(発表・ワークシート) <多様な観点と見通し><主体的・計画的> ○ 振り返りシートで簡単に自己評価をさせる。 ○ 1～2名に感想を発表させ、学び合いの良さを実感させるとともに、これからの活動を確認し、意欲づけを図る。	